琉球大学学術リポジトリ

琉球沖永良部語正名方言の記述文法研究

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学
	公開日: 2017-03-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: Giis, van der Lubbe, ハイス, ファン　デル　ルベ
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/33729

様式第~~11~~13号

琉球大学大学院
人文社会科学研究科委員会　殿

博士論文審査委員会
主査　狩俣　繁久　印
副査　石原　昌英　印
副査　宮平　勝行　印

学位（博士）論文審査の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、学位論文の審査を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号	138095J	学生氏名	Gijs van der Lubbe
人文社会科学研究科　比較地域文化専攻		主指導教員　狩俣繁久 副指導教員　石原昌英・宮平勝行	
成績評価	学位論文	合格　不合格	
論文題目	琉球沖永良部語正名方言の記述文法研究		

審査要旨

本博士論文は琉球語沖永良部語正名方言の文法に関する記述研究である。

研究方法、研究目的を述べた第1章では、記述文法が特定の文法理論に偏らず当該言語の文法体系全体を網羅的に記述する研究であること、琉球諸語研究のなかで先行研究が最も少ない沖永良部語の文法記述を行う意義を述べ、文法記述の客観性を確保するために、談話資料と面接調査の異なる方法で得た豊富な言語資料を使用したことを述べている。第2章は音韻体系、第3章は名詞形態論、第4章は動詞形態論、第4章は形容詞形態論を記述している。沖永良部語の1人称、2人称、3人称の代名詞に単数形、複数形の他に双数形を発見して記述している。

第7章第1節～第17節は、尾略形、語根、旧連体形等の活用形に接続する接辞、条件節、様態節、時間節、目的節、等位節、並列節を表す接辞、連体形接辞、準名詞接辞、テンス・アスペクトを表す接辞、否定形接辞、可能表現の接辞、ヴォイス表現の接辞、待遇表現接辞を抽出し詳細に記述している。これほど多くの接辞の分析は琉球諸語研究の中でも少ない。第9章は複文の中の条件的な従属複文の原因的な従属複文、条件的な従属複文、譲歩的な状族複文について記述している。第10章では、テンス・アスペクト・ムード体系について多くの頁を割いて記述している。動詞の語彙=文法的な分類のタイプに分けて記述している。特に移動動詞akkimu（歩く）が進行の意味を表す形式に文法化した進行相の記述を行なうと同時に、類似の形式を有する今帰仁村謝名方言、久米島謝名堂方言との比較を行い北琉球諸語内での位置付けを行っている。

本博士論文が沖永良部語の形態論、構文論に関する最も詳細な研究の成果としてだけでなく、琉球諸語の文法研究への一定の貢献もなすものであること、合わせて消滅の危機に瀕した沖永良部語正名方言の継承への貢献も認められる。博士論文審査会は、本博士論文が博士の学位論文に値すると判断する。

様式第~~11~~14号

琉球大学大学院
人文社会科学研究科委員会　殿

博士論文審査委員会
主査　狩俣　繁久　印
副査　石原　昌英　印
副査　宮平　勝行　印

最終試験の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、最終試験を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号	138095J	学生氏名	Gijs van der Lubbe
人文社会科学研究科　比較地域文化専攻		主指導教員　狩俣繁久 副指導教員　石原昌英・宮平勝行	
成績評価	最終試験	合格　　不合格	
結果要旨	副査・石原昌英の総括のもとで、申請のあった博士論文の内容とそれに関連する授業科目についての口頭による最終試験を行なった。 本論文の題目は、『琉球沖永良部語正名方言の記述文法研究』である。以下の4点を軸に試験を行なった。 まず、口頭試問（面接審査）での関連質問を行ない、本博士論文が学位の水準に達していることを確認した。次に、本博士論文に関する基礎的な専門知識や論文の研究上の位置づけを問い、研究上の貢献のあったことを確認した。本博士論文で取り上げた研究分野に関連する授業科目「琉球方言音韻研究特論・演習」「比較地域文化特別研究」「比較地域文化総合演習」などの履修によって得た視点、そして、全国学会での研究発表や査読付きの学術雑誌などへの論文投稿、地方学会での研究発表や論文投稿も積極的に行なっていること等々、学位にふさわしい研究能力とその学識を有していることを確認した。 以上の点から、本審査委員会は当該学生が学位の水準に達していると認め、最終試験に合格したと判断する。		